

明治末の政界

☆¹桂太郎と²西園寺公望が交互に組閣 …³桂園時代(1901~1912)
 …山県の後継で長州・陸軍系 …伊藤の後継 立憲政友会総裁 公卿出身

⁴桂太郎(I)内閣 1901.6~06.1 外相⁵小村寿太郎
 日英同盟、日露戦争、ポーツマス条約、田中正造直訴、
 第1次・第2次日韓協約 …⁶日比谷焼き打ち事件で総辞職

⁷西園寺公望(I)内閣 1906.1~08.7 与党⁸立憲政友会
 ハーグ密使事件、第3次日韓協約、日露協約、⁹鉄道国有法、
 港湾拡大、増税、満鉄設立 ¹⁰日本社会党の公認(翌年禁止)
¹¹赤旗事件で総辞職 (総選挙では政友会大勝)

¹²桂太郎(II)内閣 1908.7~11.81 外相¹³小村寿太郎
 伊藤暗殺、¹⁴日韓併合、¹⁵関税自主権の回復、地方改良運動
¹⁶大逆事件、¹⁷工場法制定、戊申詔書など ※政友会の反発で総辞職

¹⁸西園寺公望(II)内閣 1911.8~12.12 与党 政友会 ☆1912. 明治天皇没→¹⁹大正天皇即位 病弱
 財政難による財政緊縮<=>陸軍…²⁰二個師団増設要求(朝鮮駐屯など:19→21) ※辛亥革命の影響
 →陸軍大臣²¹上原勇作 辞職→後任を出さず→内閣総辞職
 (²²軍部大臣現役武官制)

<明治の内閣>		
イ	伊藤	長州
ク	黒田	薩摩
ヤ	山県	長州
マ	松方	薩摩
イ	伊藤II	長州
マ	松方II	薩摩
イ	伊藤III	長州
オ	大隈	憲政党
ヤ	山県II	長州
イ	伊藤IV	政友会
カ	桂	長州
サ	西園寺	政友会
カ	桂II	長州
サ	西園寺II	政友会

大正政変とその後

23 **桂太郎(Ⅲ)**内閣 1912. 12～13. 2 ※桂は内大臣兼侍従長から復帰

☆24 **憲政擁護**運動(25 第一次護憲運動)が高まる

「^{ほつそく}26 **閥族打破・憲政擁護**」のスローガン ↓ 旧憲政本党(旧進歩党)系
27 **尾崎行雄**(28 政友会)・29 **犬養毅**(30 **立憲国民党**)が中心 商工業者・都市民衆も参加
その後衆議院連続25回当選 「**憲政の神様**」と呼ばれた

<補足史料> **尾崎行雄の桂太郎首相弾劾演説**

ただ 彼等は常に口を開けば直ちに「忠愛」を唱へ、^{あたか}恰も忠君愛国は自分の一手専売の如く唱へて居りますが、^なその為す所を見れば、常に^{ぎよくぎ}玉座の蔭に隠れて^{そげき}政敵を^{きよどう}狙撃するが如き^と挙動を執って居るのである(拍手おこる)。
彼等は、^{きようへき}玉座を以て^{しやうちよく}胸壁と為し、**詔勅**を以て弾丸に代へて政敵を倒さんとするものではないか。

→桂は大正天皇の詔勅を利用して内閣不信任を撤回させ、また**新政党**の組織をめざす(発足は桂の死後)

→運動激化…議会包囲、警察など襲撃 全国へ波及 →53日で**内閣総辞職** …”31 **大正政変**”

32 **山本権兵衛**内閣 1913. 2. ～14. 3 薩摩・海軍閥 与党33 **立憲政友会**

- 34 文官任用令の緩和…政党员も上級官僚になれる
- 35 **軍部大臣現役武官制の改正**…予備役・後備役にも資格
- 36 **シーメンス事件**(1914)…シーメンス社(独)と海軍高官による贈収賄事件→**内閣総辞職**

32 **大隈重信(Ⅱ)**内閣 1914. 4～16. 10 与党 38 **立憲同志会** (党首39 **加藤高明**→外相)

軍部との調整、総選挙→同志会ら圧勝→40 **二個師団増設案可決**、文官任用令も元に戻す

41 **第一次世界大戦に参戦**、中国への42 **二十一か条要求**(→近代27)

※対ロシア政策で元老と対立して総辞職

43 **寺内正毅**内閣 1916. 10～18. 9 陸軍・長州閥 “44 **非立憲(ピリケン)内閣**”

45 **超然内閣**(政友会とは提携)→同志会ら反発、合同して46 **憲政会** 結成→総選挙で政友会に敗北

外交…47 **西原借款**、48 **石井・ランシング協定**、49 **シベリア出兵**(→近代27)

☆50 **大正デモクラシー**…民主主義的な風潮の広がり

51 **美濃部達吉**の52 **天皇機関説**(国家法人説)…『憲法講話』(1912)など

統治権は国家にあり、天皇はその国家の最高機関である、と主張

53 **吉野作造**の54 **民本主義**(1916提唱)

…論文「55 **憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず**」(『中央公論』)

主権在君を前提としつつ、世論の尊重、多数の人民の参政を求める。

【正誤問題に挑戦】<1993年A追試験、1992年本試験より>

(1) 第三次桂内閣は、第一次憲政擁護運動の批判にさらされ短命に終わった。

(2) 吉野作造は民本主義を唱えて、憲法の枠内で民意を尊重する政治の実現を呼びかけた。